

G

グランシップマガジン
[ジー] vol.41

GRANSHIP magazine
WINTER 2008

SPECIAL1 特集

2008年 しずおか 連詩の会

「しなやかな声」の巻

次代を創る顔

ハンディクラフト作家 正久 りか

しずおかアーティスト・リレー

手すき和紙制作 内藤 恒雄

SERIES わが羅針 第41回

野村 萬斎

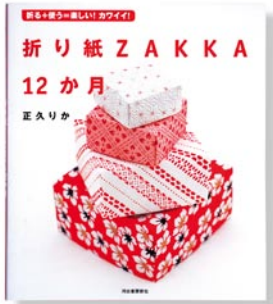
SPECIAL 2 小特集

グランシップ
10年目の春に。

村松友視の文化漫遊 ㊥

グランシップ ベンクラブ

多々良 栄里 (フォトグラファー)



『折り紙ZAKKA12か月』著／正久りか（河出書房新社）
日本に伝わる折り紙を現代風にアレンジ。ご祝儀袋やポチ袋、ギフトボックス、和風バッグや小さな灯りまで、四角い紙を「折る」だけで手軽に作れる「使える」雑貨を紹介している。

ハンディクラフト作家

正久りか

紙と花。和と洋。日々の手仕事から
自分のやりたいことが見えてきました。



糸図を遡れば、刀工という家柄。手仕事もなるほどの血筋だ。「でも、手先が器用かといえばそうでもなくて。とにかく、紙“が好きな子どもでした”綺麗な包装紙を眺めたり、千代紙で箱を作ったり、折紙で遊んだり……。気づけば、大人になった彼女の掌の中に大好きな紙が再びあった。ルシードフラワーやハーブ雑貨など、花の世界で

も活躍。「新しい手仕事を探れば探るほど、自分のやりたいことがはつきり見えてきた」という。以前は抵抗があったという“エレガント”“上品”“との評も、今は「それが自分なんだ」と受け止められる。「洋紙で和の形を作ったり、千代紙で洋の世界を作ってみたいですね。実際に使う紙を手にした瞬間に沸き上がるイメージが自分でも楽しみです」

まさひさ りか

大学進学とともに上京。アパレル会社勤務の後、ラッピング、フラワーデザインなどを学び、ラッピングとフラワーアートのオフィスにてスタッフ、講師を務める。1994年独立。現在、「Round*R」主宰。花や紙を使った雑貨、アクセサリー、プライダル、ディスプレイ作品など、ヨーロッパスタイルを基調とした「使えて楽しめる花」と「身近でかわいいラッピング」をコンセプトに活動。書籍や雑誌、TVなどでも活躍。著書に『おし花でつくるデイリー雑貨』、『折り紙ZAKKA12か月』、『手作りのハーブ雑貨』、『切り紙でかわいい つなぎ模様』（共著）がある。ルシードフラワー協会認定講師。静岡県浜松市（旧春野町）生まれ。 <http://www.round-r.com>

Contents

次代を創る顔④ 2

ハンディクラフト作家 正久 りか

しずおかアーティスト・リレー② 3

手すき和紙制作 内藤 恒雄

SPECIAL-1 特集 4

2008年 しずおか 連詩の会

「しなやかな声」の巻

coming soon I 10

雛の宴 ～五人囃子のおひなさま～

series わが羅針 第41回 11

野村 萬斎

「狂言の目線。」

SPECIAL-2 小特集 16

グランシップ 10年目の春に。

グランシップペンクラブ 多々良 栄里 (フォトグラファー) 19

REPORT 20

平成20年度静岡県公立文化施設協議会自主事業研究会 基調講演より
平田オリザが語った2時間。
文化による地域再生。そして、公共ホールの役割。

essay 村松友視の文化漫遊⑦ 22

「大人びた城下町のテイスト」 画／風鈴丸

information a-go-go 24～30

- 公演情報
- Just Finished!／「白石加代子」●プレゼント
- 友の会のご案内 ●SPAC NEWS ●TOPICS
- TRY GRANSHIP
- SUPPORTER's VIEW READER's VIEW Editor's room



(2006年制作)

表紙アート●村上 征生 作品タイトル：『小曲集』

いつも夢見がちな玩具の少年がいる。彼の居場所は漆喰壁の中に掘られた50センチ角余の穴。小さな窓からは草原とその向こうに黒々とした針葉樹の森が見える。ときどき家人が思いのほか発条を巻くので頭の中が騒がしくなる。そんな夜はお気に入りの笛を携えて森の奥へ入り思う存分大好きな曲を奏でる。グリークの抒情小曲集の一曲「蝶々」。

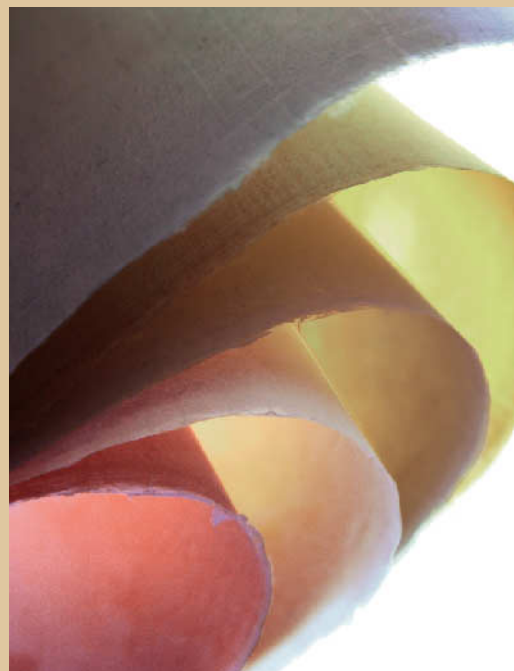
しずおか

23

アーティスト・リレー

手すき和紙制作
内藤 恒雄

次回
彫刻家
戸塚 秀三さん



上から、がんび・こうぞ、みつまた・草木染 山桃、みつまた・顔料 群青
みつまた・顔料 黄土・ペレンス、みつまた・顔料 弁柄

書道用紙・版画用紙・絵画用紙を中心に

天然素材・こうぞ・みつまた・がんびの木の皮を使用し、

現在では珍しい干板・天日乾燥で仕上げております。

各作家が作品意欲のわく手すき和紙が出来たら最高です。

ナイトウ ツネオ●1948年東京・台東区生まれ。1969年「日本独自で世界に誇れる手仕事」として手すき和紙を選択する。1976年静岡県芝川町で独立・現在に至る。

五人の詩人を貫く声に 導かれた連詩、全四〇編。

一昨年の秋、宇宙航空研究開発機構（JAXA）が中心となって『宇宙連詩』という試みが始まった。監修を務めるのはご存知、大岡信氏。そして、第三期を迎えている現在、その大岡氏よりさばき手の命を受けたのが、こちらにもご存知、野村喜和夫氏である。

さて、この二人が今年も顔を揃えての『しずおか連詩の会』は、『宇宙連詩』の七年先輩の満10年目。9回目となる今回は、落語にも造詣が深い八木忠栄氏、浄土宗の僧侶でもある山田隆昭氏、紅一点は今年詩壇の芥川賞といわれる日氏賞を受賞した杉本真維子氏を加えて行われた。

二〇〇八年 しずおか

連詩の会

「しなやかな声」の巻

世界を拓きながらも、やはりそこには詩人それぞれの個が見え隠れしている。それもまた連詩ならではの魅力、面白さだ。

今回のタイトルは、先例にならって八木氏による第一番より「しなやかな声」と命名された。また、創作したばかりの作品は、完成の翌日、グランシップで発表。詩人による朗読の後、創作の裏側などが明かされたが、その席上で野村氏はこう語っていた。

「誰のものでもない、我々を貫く声を感じました。そうした声に導かれてつくることができた、そんな作品です。」



創作 二〇〇八年十二月二十日（木）～二十一日（土） ホテルセンチュリー静岡
発表 二〇〇八年十二月二十三日（日・祝） グランシップ 十一階 会議ホール・風



創作 ホテルセンチュリー静岡



連

詩とは、連句や連歌の美学をベースにした創作現代詩で、毎年さばき手を担う大岡氏は、その提唱者であり、第一人者。定まった形式はないが、本会では、五行と三行の詩を交互に繰り返し、各詩にはさまざまな視点、モチーフが織り込まれ、別の詩人が後の詩を創作し繋いでいく。発表会では、創作者による朗読のほか、繋がり解くための解説が行われ、以下は、作品全編と、その解説の一部である。

第一人者大岡氏にひとまず挨拶。 言の葉は走り出し、燃え、ふ化する。

【第一番／第五番の解説】

忠栄…「しなやかな声」とは、もちろん大岡さんの上品な声のこと。（笑）まずは当地へのご挨拶もかねて静岡の名物「お茶」を登場させました。「言の葉の舟」は詩人の言葉動かしていくものです。大岡さんが18才頃の作品『夜の旅』という作品のへぼくらの歌から「歌いはじめる」としました。**隆昭**…このままどんどん走り続けようと。「歌」ということなのでリフレインしています。詩は虚の世界に入っていくようなところもありますから、「魚のなかに溶けてゆく」としてみました。**喜和夫**…ブルトンのシュールレアリスムの作品に「溶ける魚」というのがあって、その翻訳をされていたのが大岡さんでした。だから、これは大岡さんへの挨拶のつもり。教養をひけらかすようなものになってしまいました。（笑）**真維子**…「紙」というのは本のページです。これを見ると、まだ緊張から身体が縮こまっている自分を感じます。次の大岡さんが「卵」をちゃんとふ化してくださって安心しました。

信…いや、ヘンな卵をふ化させちゃったね。（笑）「四角」「二枚」「三角」と遊んだわけです。自然にこういう詩になったわけだけど、今読んでみると何言ってるんだと怒られそう。（笑）

一 しなやかな声に呼ばれ

お茶をいただくような気分
でここまで走ってきた
言の葉の舟を少々荒っぽく操り
ぼくらは歌いはじめる

忠栄

二 いつまでも走る いつまでも
道が果ててしまっても 海がある
そうしてぼくらは魚のなかに溶けてゆく

隆昭

三 かつて アンドレ・ブルトンという詩人がいて
夢を夢のままに書こうとした
推敲はしなかった
彼はたぶん 紙のうえに
脳みそごとつるつと脱皮したかったのだ

喜和夫

四 べちゃっと虹色の滴をのんで、一枚の紙が燃えている
蛙になるなら今だ、誰かがちぎった頁の端から
つややかな卵が産まれ

真維子

五 四角の卵から二枚の翼が生まれ
ひらひらと人を呼ぶ
私はどこへ行ったらいいの
私の故郷は球形なのに
めざす先はみんな三角な丘陵地

信

六 飲酒も邪淫も五悪のうち……
さても この身は
今日も明日も隠居を決めこんで

忠栄

七 盗んだのはこの手じゃない
山のむこうからやってきて耳元で
誘惑し続ける小瑠璃たち
だから野菜をひっこ抜いた穴に
せて肥を残しておこう

隆昭

「この会は連詩を育ててくれている。静岡の誇りとすべきものだと思います」



大岡 信

おおおかまこと

東京大学文学部卒業。詩集に『記憶と現在』『春 少女に』『捧げるうた 50篇』『旅みやげ にしひがし』ほか、最新詩集に『鯨の会話体』。著作には『折々のうた』（通巻18冊）『連詩の愉しみ』『ヨーロッパで連詩を巻く』『うたげと孤心』『日本語の豊かな使い手になるために』など。2002年国際交流基金賞受賞。2003年文化勲章受章。2004年レジオン・ド・ヌール勲章受章。現在、日本芸術院会員。1931年静岡県三島市生まれ。

「大岡さんの懷で遊んだ三日間。連日快晴で二年分の富士山を見ましたよ」



八木 忠栄

やぎちゅうえい

日本大学芸術学部卒。思潮社で「現代詩手帖」編集長と詩書出版に従事。その後、西武百貨店のスタジオ200、銀座セゾン劇場総支配人を務める。詩集に「八木忠栄詩集」「こがらしの胴」「雲の縁側」（現代詩花椿賞）ほか、エッセイ集に『詩人漂流ノート』『落語新時代』など。句集に『雪やまず』『身体論』がある。個人誌「いちばん寒い場所」主宰。「余白句会」「かいぶつ句会」所属。現在、青山女子短大講師。1941年新潟県生まれ。

「一緒に創る現場に最初は緊張。でも、やがてそれが楽しくなっていました」



山田 隆昭

やまだたかあき

大正大学仏教学部卒。東京都庁に勤務し、山谷労働者の相談員などを体験する。静岡市の華陽院住職は父方の叔父。1996年詩集『うしろめた屋』（土曜美術社出版販売）で第47回H氏賞受賞。2003年『座敷牢』（思潮社刊）ほか、『鬼』など。日本現代詩人会理事長。1949年東京都生まれ。

八 芭蕉なんか読むんじゃなかった 鳥であれ人であれ

立ち去るときがもしも薄明であるならば
その声がいつまでも白く残って 困ってしまう

九

日の丸の真ん中を抜けて、
フェルメールブルーに手をふる少女の
肩をからまつがやさしく抱いている
そのおかつばに積雪のきょう
富士と見比べて、老齢はぐんぐんのびていく

十

女はいつも若い あの牝馬の
肢体のうるわしさ
駄馬とよばれてもなんたる丈高さ

十一

棟方志功によせて
椅子に座った姿はわが列島に似て
股のあたりに大和が淡く輝く
裏から色を施せばますますあでやか
おしろいで塗り固めなくてよい
あなたの生まれた土地はもう白い

十二

沖合をすべる帆に目もくれず
わらじをはく次郎長一家
お蝶さんが隠す涙ひとすじ

十三

空の青が皮膚にしみてくるような
ホテルの最上階で われら
言葉の果たし合いなどして何になろう
ここから見下ろせば
新幹線だつて一匹の優美な蛇だ

十四

しなやかにうねり曲る
豹の背中にとび乗って
孫悟空の舐斗雲と競争するのだ

十五

三日月型の光を
銀の輪に宿してそれは
わたしの眠りを透かし編みにする
てんでんと、粉雪につけた手形のように
いざなう誰かを、断わってはいけない

十六

月光の下 むかし昔の下駄の音がする
足裏の木肌が心地よかったろう
けれど切れた鼻緒は なんだかさみしい

喜和夫

真維子

信

隆昭

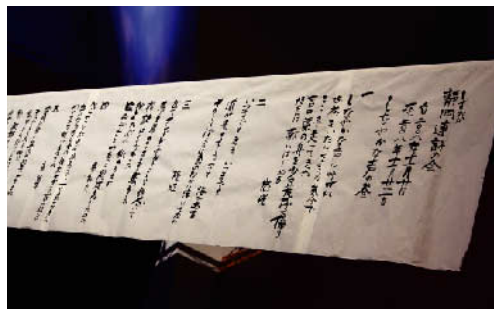
忠栄

喜和夫

信

真維子

隆昭



【第八番の解説】

喜和夫…また教養をひけらかしちやうた。(笑)前の「小瑠璃」から芭蕉の句「海暮れて鴨の声ほのかに白し」に結びつけたものです。前の「肥」を同音異義の「声」にして。「声」は今年のテーマでもありますからね。

【第十一番～第十二番の解説】

隆昭…大岡さんの「うるわしさ」から志功の「大和しうるわし」を発想。最初の詞書さはなくともわかる詩にしなければいけないのですが。「椅子に座った姿」が日本列島に似てるんじゃないか日頃から思っていて、いつか使いたいと思っていたんです。

忠栄…清水港の風景から隠し球として「次郎長」をぜひ出したかった。次郎長一家は、大岡信一家。(笑)次郎長が喧嘩に、我らは連詩を巻くために「わらじをはく」わけですよ。

【第十七番～第十八番の解説】

忠栄…これまた遊ばせてもらいました。喜和夫さんの奥さんがフラーメンコのダンサーですから、彼に当てつけて。こういうとほけた詩も座であればこそ。彼にははぐらかされてしまいました。ただ**喜和夫**…ひたすら逃げて。(笑)ただ言葉遊びの調子は「酢ダコ」のようにくつついてきて。青葉通りのイルミネーションが点灯されたという当日の静岡新聞の記事をこれは引用したものです。

十七

すてきなダンサーが 明け方
素足でダンナを蹴つとばす
酢ダコをくわえたダンナさま
酔眼朦朧 たまらず
すってん ころりん

忠栄

十八

あれはたしか 発光ダイオードの虹のなかを
五十五羽の白い鳥と一羽の青い鳥が飛び交うというような
めちゃくちゃ蠱惑的な店だった

喜和夫

十九

チルチルとミチルは仲良しの兄妹でした
幸福の青い鳥を探し求める旅で
二人は赤い鳥に出会いました
二人が恐れた悪漢ではなく
にんまり笑う作者の唇でした

信

二十

静かなわるくちを浴びて
いじめっこが屋根に取り残されている
石つぶてを投げるケンカくらい本当はしてみたかったよ

真維子

二十一

冬のオリオンよ
ばくのなかにも星があり
理由もなく輝き出て おもぎしをほんのりと明るませる
あるいは怒りの握りこぶしから
かすかに光がこぼれ落ちるのも その星のしわざ

喜和夫

二十二

世間は十二月間近で
クリスマスがにぎやかにやってくる
マッチ売りの坊主がひとり 道端ですねている

隆昭

二十三

暗い路地でも辿っていけばどこへでも行ける
そんな当たり前のことに気づいた
朝になったらもう少し視線を上げて
山並みをながめ、眼球筋をほぐして
三日間で近眼を治したい

真維子

二十四

円周率の迷路に踏みこんだ少年が
声をかぎりにうたうヨーデル
お母さんは行方不明です

忠栄

二十五

父親はとうのむかしに天の彼方
どこへ行ってもその歌声が響いている――
南海の藻屑となったときかされたが
今は別の土地で赤ん坊を育てていると
行商のお婆さんの噂

信

「一人で書く詩とは違う世界。

大ベテランの中で泣きそうでした」(笑)



杉本 真維子

すぎもとまいこ

学習院大学文学部哲学科卒。2002年に第40回現代詩手帖賞受賞。第一詩集『点火期』(2003年)、共著に『詩のリレー』(2006年)。2008年、第二詩集『袖口の動物』で第58回H氏賞受賞。詩論、文芸批評、エッセイなども手がけるほか、宇都宮A&S専門学校文芸創作科で講師も務める。1973年長野県生まれ。

「回を重ねればうまくなるというのは幻想だったと。(笑)ただ、ものすごく楽しかったですね」



野村 喜和夫

のむらきわお

早稲田大文学部卒。現代詩の先端を走り続けるとともに、批評、翻訳、朗読パフォーマンスなども行う。詩集『反復彷徨』『特性のない陽のもとに』(歷程新鋭賞)『現代詩文庫・野村喜和夫詩集』『風の配分』(高見順賞)『ニューインスピレーション』(現代詩花椿賞)『街の衣のいちまい下の虹は蛇だ』、評論『ランボー・横断する詩学』『散文センター』『21世紀ポエジー計画』『金子光晴を読もう』『現代詩マニュアル』、CD『UTUTU／独歩住居跡の方へ』など。1951年埼玉県生まれ。

二十六

日本ではあまりいいこともなかったの
でジャワに移住して車夫になり 合歓^{カキ}の木の下で
とろけるような午睡をするんだ とべつの私は語った

喜和夫

二十七

ぼくのなかに住む私という者は御しがたい
いいかげんなのは我慢できる
もの欲しい態度も まあいいか
困ってしまうのは ほめたくないのに
勝手に他人をほめてしまうことだ

隆昭

二十八

玄関に上がりこんで、靴も脱がずにお邪魔してしまう
転んだついでに花瓶も割って
破片をつなぎあう私たちはすでに夫婦なのです

真維子

二十九

むかし「破れ太鼓」という映画があった
ほとんどのストーリーはもう忘れてしまった
主演の阪妻の強烈な印象だけが残った
家族に嫌われる業突張り親父だった
そんな男はもはやこの国ではいなくなった

忠栄

三十

エノケンさんに一度会ったことがある
箱根関所考古館に居候していたころ
怠け学生のちゃちな解説を真剣に聴いてくれた

信

三十一

海のなかにある赤い鳥居に
フェリーが停まらないのは残念だった
箱根神社の嫉妬深い女神様を恐れ
一生かかって出会えない神様だっているさと
齧るおにぎりをカモメが丸ごと掻つ攫っていく

真維子

三十二

湿った岩屋の奥に弁天さまが座っていた
抱えもつ琵琶の音を聞いた者はいない
規則正しく落ちるしずくが ピシリと肩を打つ

隆昭

三十三

美はどこにあるかなんて
誰にもわからない
泥の海に浮かぶコンビナートでさえ
夜ともなればさらびやかな光をやや哀しげに身にまとい
息を呑むほど美しい

喜和夫

三十四

私は有楽町に棲む老人のどぶ鼠
正月元旦に電車道へ出て走っていると
「やあ 美しい」と感嘆してくれた泊り明けの記者もいたつけ

信



発表 グランシップ会議ホール・風

桜井 洋子 さくらい ようこ
NHKエグゼクティブアナウンサー。
昨年に引き続き今年も発表の席の司会を務めた。



「お若い紅一点、
杉本さんが参加された今年は、
創作風景が軽やかで
弾んでいました」



言葉遊びもそろそろお終い。 夕映えを背に箱舟を降りる詩人たち。

【第三十六番〜第四十番の解説】

真維子…前の詩は、考えれば考えるほど面白い光景だなと。「天から」より「雪」を連想。「さんざ」を「ばんば」につなげました。最初「笑い涙」としたら、大岡さんにそんな言葉はないと言われたのがショックで。故郷の長野ではみんな使っていましたから。

隆昭…最終行の「遊び」を継いで。終わりにさしかかったので日頃詩について思っていることを書いてみました。そして、頭を使っているとお腹が空く。私は坊主ですがお肉が好きなんです。(笑)
喜和夫…ネタが尽きそうな時、また言葉遊びができそうでありがたかった！「〜終わりがたくない」は連詩が終わる開放感と寂しさ。折しも窓越しにこの世の果てのような「夕焼け」が見えていました。

信…来年の干支を聞いたら「丑」年だと。そして、広辞苑を引いたら「牛は牛連れ〜」のことわざが乗っていたのでそのまま使いました。ずるいんです。(笑)
忠栄…いよいよ最後。中身はどうでも最初と最後が肝心ですからね。「こぼれ出て」とは、連詩の終わり。詩とは大体「あやしい」もの。それぞれ一人の世界に戻って、また自分の詩を書き出すのだと。夕焼けを使いたかったが、喜和夫さんがずっと外を見ていて使おうんじやないかと思つたら、やっぱり使いやがって。(笑) 頭に來たから「青空」にしてやった。(笑)

三十五

奈良の神主と駿河の神主が
皇居の裏で相撲をとっている――
私はそんな夢を見ていた
はるか彼方で火山はくしゃみをし
天から笑いがさんざと降る

忠栄

三十六

笑いすぎて滲む涙を堪えられた者はいないよ
雪ばんばはそう言い残して春に溶けていった
来年までは人々の目のなかで楽しげに遊んでいる

真維子

三十七

ありったけの言葉を繰り出して しりとり遊びをした
お腹が空いたから 川原で鍋物でもしようか
鍋ならなんでも入れられる闇鍋がいい
だいすきな牛肉をつまむと 糸こんにゃくみたいに
ぞろぞろと言葉が連なつてきて收拾がつかない

隆昭

三十八

あおむし ししむら らふ ふらち
終わらない 終わりがたくない という思いが
泣き腫らしているような 夕映え

喜和夫

三十九

二十五階を吹き過ぎる風に
短い髪をさらさら梳かせ
来る年も 丑のように歩く
どすどすと歩く
牛は牛連れ 馬は馬連れ

信

四十

青空に浮かぶ箱舟からこぼれ出て
おのがじし詩のシートをひろげ さて
あやしいほむらに身をまかす

忠栄

創作 二〇〇八年十一月二十日(木)起

於 ホテルセンチュリー静岡 同月二十二日(土)満尾

参加者 詩人

八木 忠栄
山田 隆昭
野村 喜和夫
杉本 真維子
大岡 信

発表 二〇〇八年十一月二十三日(日・祝)
於 グランシップ十一階会議ホール・風

家に段飾りひな人形をお持ちなら、上から三段目、五人囃子を見てほしい。もし、扇子や笛、太鼓や鼓を手にした五人囃子なら、それは江戸以降の主流にあるおひなさま。そうではなく、笛や箏、火焔太鼓、笙、鞆鼓の奏者が並んでいたら、それは江戸期以前、貴族に好まれた京風のおひなさまだ。

さて、グランシップで毎年公開される「高松宮妃のおひなさま」はどうかといえば、武家である徳川家のお血筋ながら後者のもの。京びなならではの風情を湛え、そこには雅楽の楽人たちが並んでいる。

ひな祭りがまだ宮中の〈ひいな遊び〉であつた平安時代、祝いの席で供されたのは〈雅楽〉という音世界だった。春三月のハレの日、一体どのようなハレの音が催されたことだろうか——そんな興味に應えるのがこのたびの宴だ。

雅楽は耳慣れないと思われがちだが、その音調には意外に聞き覚えがある。今回の曲目にある「越殿楽」（えてんらく）は「今様」や「黒田節」に編曲されているし、また「平調音取」（へいじょうのねとり）とはわかりやすく言うところ「木短調の音ならし」のようなもの。

しかも今回は能楽も楽しめる。春の宴にふさわしい華やぎの一曲「西王母」（せいおうぼ）、狂女物としては屈指の名作「三井寺」（みいでら）、勇壮な獅子舞に見応えありの「石橋」（しやつきょう）というラインナップ。雅楽も能楽もはじめてなら、なおさらおすすめ。難しいことは考えずに、ひいなを雅をのぞき見るつもりでぜひ。

雅楽なんて、はじめて。能楽だって、はじめて。こんな春の宴なら、ちようどいいかも。



雛の宴

〜五人囃子のひなまつり〜

雅楽

【出演】

雅楽道友会
鞆鼓（かづ）／田中正之
太鼓（たいこ）／柴山純
笙（しょう）／今西靖志
箏（そう）／新屋治
笛（ふえ）／加藤道信

【曲目（予定）】

「平調音取」（ひょうじょうのねとり）
「越殿楽」（えてんらく）
「五常楽」（ごじょうらく）
「陪臚」（ばいろ）

能楽

【出演】

シテ方／観世喜正
大鼓／亀井広忠
太鼓／大川典良
笛／八反田智子
小鼓／大倉源次郎
大山容子

【曲目（予定）】

「西王母」（せいおうぼ）
「調一声」三井寺（みいでら）
「石橋」（しやつきょう）ほか

*進行役／大川信子（常葉学園大学教育学部教授） 林陽（写真家）

平成二十一年二月二十八日（土）
十四時開演 十三時三〇分開場
六階 交流ホール

チケット発売中！

※グランシップ友の会会員は1割引
未就学児入場不可

全席自由

一般二、〇〇〇円

学生・中学生以上、大学生以下）一、〇〇〇円

小学生 無料（事前申込制）

◆「お着物召しませ、おでかけあそばせ。」
着物でご来場の方に粗品を進呈

◆主催 財団法人静岡県文化財団

◆後援 静岡県、静岡県教育委員会、静岡市教育委員会

申込方法

TEL 054-203-5714 FAX 054-203-5716 E-mail info@granship.or.jpの
何れかで（財）静岡県文化財団企画制作課まで。E-mail、FAXの場合は名前、
電話番号、学年、保護者氏名、希望枚数を記入。

野村 萬斎

狂言の目線。

「人間の生き様をどう映し、どう見せるか。」

人間を映すという意味では演劇はすべて同じだと思いますけど、狂言の場合、かなり引いて俯瞰して映す。

だから物事を客観的に見られて、

こいつ、しょうがねえなあと思える。それが狂言の目線ですね」

役者の肉体を通す。

声の存在感が圧倒的だ。ご存じの通り、低く重厚感はあるが、不思議と爽やかでもある。狂言には「引きながら押す」という二律背反の発声法があるとのことだが、氏自身がまさに二律背反。凛と柔らかく、深く清々しく。舞台上の姿のごとく、その背筋は決してブレることなく、なおかつそこには常に新しい風が吹いている。だが、残念ながらそれは言葉では伝えきれない。口伝の芸能に生きる氏の魅力はやはり直に「感じる」のが一番なのだ。

——ときには現代劇の演者として、演出家、芸術監督としてなど、幅広くご活躍ですが、

肩書きはあくまでも狂言師一つなのですね。「そこは僕のこだわりで、どれが僕の一生涯の生業かといえば、やっぱり狂言ですから。すべてはそこから派生する演出業であり、俳優業であり、教育業であり、芸術監督業であるという感覚です。」

——このたびのグランシップでの公演は、観世宗家共々、ご子息との共演とのことですが、ますます楽しみではありますが、ご自身のご幼少時代は師匠であるお父様との関係はどのようなものでしたか。

「最初はアメと鞭の世界ですね。お猿さん(朝猿Ⅱうつぼざる)でデビューしますから、いつてみれば猿の調教と同じ。(笑)お稽古の後で必ずフルーツ等を食べる。その繰り返しです。しかも台詞があるわけではなくて、謡に合わせて飛び跳ねたりと、まあ、リトミックみたいなものです。初舞台ではたくさん褒美をもらって、僕の世代でいえばウルトラ怪獣が一夜にして二〇体ぐらい揃うわけ。それはパラダイスですよ。(笑)でも、そのうち自我が芽生えてくると、なんで自分はこんなことをやっているんだと。台詞や動きも複雑になって、おまけに自由演技ではないのでまさに、型にはめられる。ような気がして面白くない。それよりスポーツがしたいとか、ロックをやりたいとか。(笑)」

——けれども狂言師としての道を、それもご自分の意志で選ばれたとうかがっています。

「今回は観世の宗家とご一緒させていただくわけですが、家業としての重さは僕の場合はもう少し軽かったかなと思います。

今は一つのグループのリーダーたる重責もありますが、従兄弟たちも多かったもので僕がやらなくとも誰かがやればいいじゃないかと。それに今でこそ狂言は注目していただけていますが、僕が小さい頃は狂言なんて誰もわかってくれなかった。そもそも僕は自分の父親の職業を説明するのがとても嫌でした。そんな頃に某コーヒーマーシャルに父が出て少し気持ちが変わり、狂言についての見方、思いも変わっていったということはあります。」

——ご自身ではよく「狂言をプログラミングされた」という表現をされていますが、現在はご子息をプログラミングなさっているところでしょうか。

「ある意味、基礎に立ち返る機会になりますね。お能の場合はかなり内向きに、保守的になれる環境にあります。狂言はお客さんの反応が直接返ってくる芸能なので、お客さんの種類に影響されがちなところがあります。笑いに来るお客さんとお能と同じように芸を観に来るお客さん、大きくこの二種類がありますが、初心者向きにやっていくほどわかりやすい芸になってしまいますし、逆に通向きにするほどわかりにくい芸になる。普及型であるとか、芸を極めるなどといった座標が出たとき、ゼロは何なんだ、我々の基礎は何なのかと基本に立ち返る機会になっているかもしれません。」

——そのプログラミングの方法は、やはり口伝が基本なのですか。

「逆に感覚は文字に表せないですね。文

字にしてしまうと文字の意味しか伝えられなくなる。柔らかいけど堅い、引きながら押すというニュアンスは、文字の上ではわかりにくいでしょう。たとえば僕らの発声というのは、まさに「引きながら押す」ですね。声を出さないようにしながら最終的に声を出すんです。それをそのまま言葉として伝えても、二律背反なんだなというところはなんとなくわかるけど、実際のところ身体はどういう感覚なんだという



能楽。御法度といわれる。生をそこに投影させることは御法度といわれる能楽。「自分にばかり引きつけてはいけないということでしょう。しかし、どこかで自分を投影しないと役者に見えない。どう解釈し、提示するかということはどこかで求められていると思いますね。」

ことはやってみせるしかない。鷹が獲物を獲るときに手本を見せて覚えさせるのとまったく同じですね。」

——二、三〇分という狂言の上演時間と、二時間、三時間という現代劇とでは、エネルギーの配分も自ずと違ってくると思います。

「違いますね。その代わり現代劇は台本に頼れます。内容があり、ドラマがあるのに忠実に演じていれば舞台が成り立つとこ

ろはある。ところが狂言はある意味単純で台本を読んだだけでは、なんだ、これで終わりかと。それが役者の肉体を通すと違うものになる。そこがまさに口伝なんだと思います。」

DNAが反応する瞬間。

——狂言師に求められる最も重要な資質とは何なのでしょう。

「当然、基礎技術を持った上での話ですが、それはシチュエーションを読み取り、それを提示する力なのかなと思います。人間の生き様をどう映し、どういうシチュエーションでどう切って見せるかと。人間を映すという意味では演劇はすべて同じだと思いますけど、狂言の場合、かなり引いて映す。だから客観的に見られてバカだなあと笑いとばせる。バカにするというより、こいつ、しょうがねえなあ、そんなもんだよね、というのが狂言の目線ですね。」

——史実に材を求め、登場人物が固有名詞であることの多い能にくらべて、狂言は〈このあたりの者でござる〉というわけで役作りは難しいように思われます。

「だからこそ人間を勉強してないと。そういう意味では狂言師は人間観察が重要ですね。例えば、失恋した女性のことをお能的発想ではその心情にミクロ的にスポットをあてて、当人の悲劇的な思いを量るわけです。狂言的な発想にすると、あんな男にだまされて。でもそういうことも、長い人生の間にはあるよねという風にな



屋根や柱のない舞台では、まず、空間をどれだけ埋められるかを考えるという。「そういう意味で三間四方というホームグラウンドでやるのが一番いい。芸も乱れないですね。」

【のむらまんさい】

狂言師。重要無形文化財総合指定者。祖父・故六世野村万蔵、父・野村万作に師事。3歳『靉猿』で初舞台。東京芸術大学音楽学部卒業。「万作の会」での公演活動のほか、「狂言ござる乃座」を主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台『敦・山月記・名人伝』『国盗人』など古典の技法を駆使した作品の演出、NHK『にほんごであそぼ』に出演するなど幅広く活躍。各分野で非凡さを発揮し、狂言の認知度向上に大きく貢献。1994年文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞等を受賞。2002年より世田谷パブリックシアター芸術監督。著書に『狂言サイボーグ』『What is 狂言?』『MANSAI◎解体新書』など。1966年東京生まれ。

るわけです。まあ、これがお能と狂言の違いの適切な説明かどうか、わかりませんが。(笑)

—— 初舞台から四〇年。狂言師になってよかったと思われる瞬間とはどのようなときですか。

「それは『翁』や『三番叟』などのある限られた曲、それも狂言の家の子でなければなかなか演るチャンスがない曲ではやっぱり晴れがましく、しかもそれを得意とする思いがあればなおさらですね。お芝居の上手い人、演劇的に演じることの上手い人というのは当然出てくるわけですが、『三番叟』のような根源的な芸の、まさしく六〇〇年間のDNAが脈々と続いているような曲では、そのDNAが反応することの瞬間があつて確かに「何か」を感じます。」

—— 少し前までは狂言のお客様は能のお客様でした。それが今では狂言を観にいらつしやる。このことについてどのようにお考えですか。

「昔は〈三年片類〉といって侍は三年に一度類がゆるめばいいといわれたほど、笑うことはふしだらであるという風潮がありました。そういう名残で笑いが一段低く見られていた時代があつたことは確かです。ところが今やお笑い芸人がどんなタレントよりも高額なギャラをもらう時代です。笑いの復権がまさに狂言の地位を向上させたと思いますよ。けれども、僕は笑わせるために狂言をやっているわけじゃない。そこにはお能と一緒にやってきた芸の力があり、あくまでも美的な

観念の中で笑いを扱ってきたわけですから。ただ爆笑するだけだったらテレビを見ていればいい。ある人間の営みを美しく描いていて、なおかつ面白く、可笑しいというのが僕らの狂言の大事な根幹ですから。最近では狂言だけの会もありますが、ときには兄弟のように育ってきた芸能である、お能と一緒にご覧いただくほうが望ましい場合もあると思います。」

—— このたびの演目は『蝸牛』ですが。

「これは狂言でなければ演れない曲ですね。山伏をうつかりカタツムリに間違えちゃつたと、ただそれだけの話なのに三分近く、あれだけナンセンスで楽しく、しかも歌謡性、舞踊性もある。まさに狂言ならではの演劇性です。荒唐無稽で突き抜けちゃつている。理詰めでないから、舞つたり、囃し立てたりという芸能の楽しさが凝縮されている曲ですのでぜひ、お楽しみいただきたいと思います。」

G



3/7^土

チケット発売中!

グランシップ静岡能

14:30開演 14:00開場

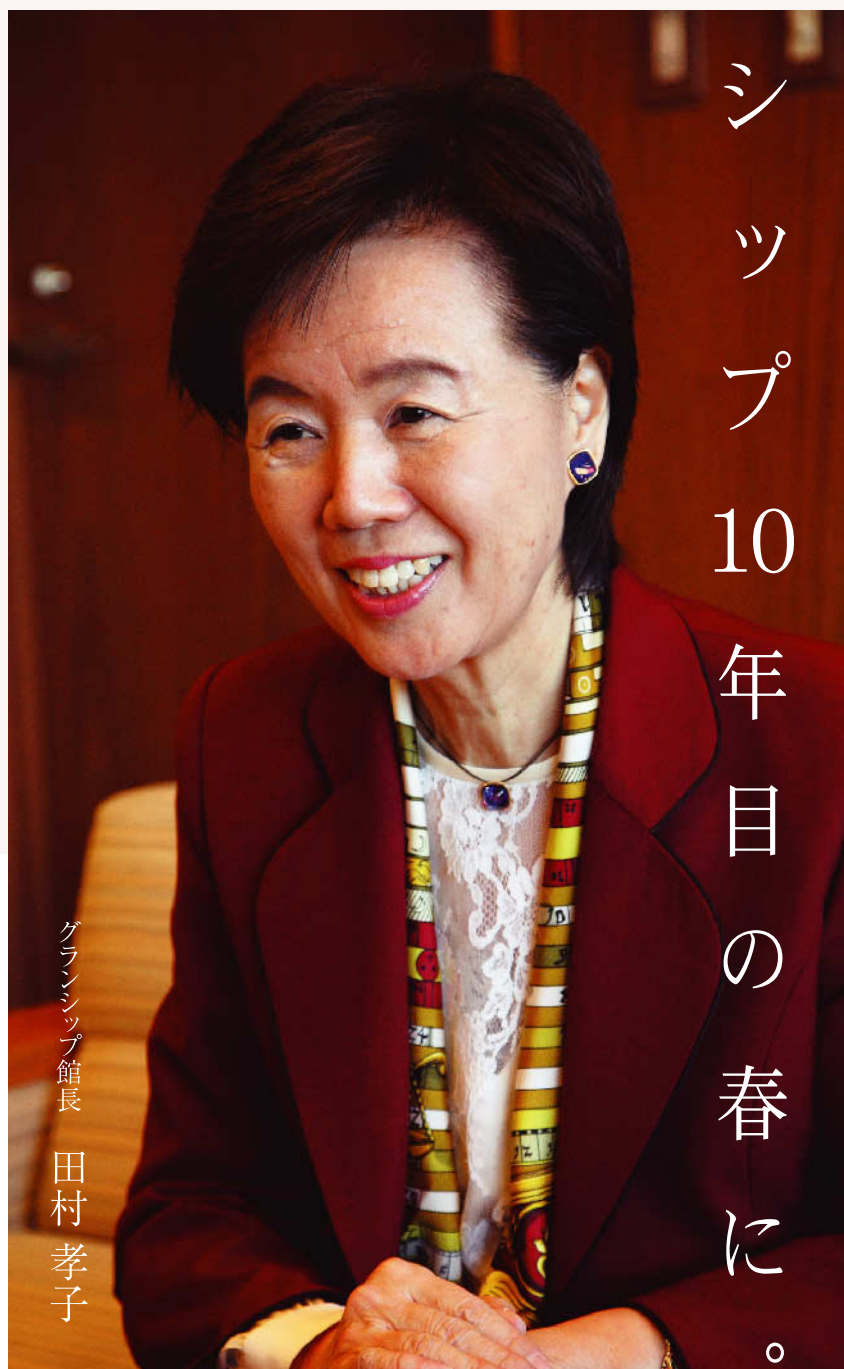
グランシップ 中ホール 大地

全席指定(税込) / S席 5,000円 A席 4,000円 学生券 2,000円

※グランシップ友の会会員は1割引

能 『望月』 観世流/観世清和 観世三郎太
狂言 『蝸牛』 和泉流/野村萬斎 野村裕基

グランシップ 10年目の春に。



グランシップ館長 田村孝子

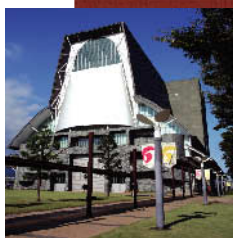
今年、グランシップは開館からちょうど**10年目の春**を迎える。「10年ひと昔」というが、変化の度合いはひとそれぞれ。しかし、少なくとも世の中の情勢はずいぶん変わった。文化についての考え方も10年前のそれとはだいぶ違うようだ。そこで10年の節目を前に、グランシップは今後その帆にどんな風をはらんで、どこに向けて航海していくのか、さらに10周年の企画としてどんなものが進んでいるのかなどについて、田村孝子グランシップ館長に聞いた。

「おかげさまで出帆から10年。」

「10年前、グランシップが担うべきとされた役割はやや漠然としたものでした。ところが昨年の3月、静岡県では〈文化振興基本計画〉というものをつくりました。国の場合もそうですが、〈基本法〉ができると、それに沿って〈基本計画〉を策定するのが通例です。ただし、〈文化〉に関してはそういうあり方はそぐわないということで大抵〈基本方針〉になるのです。そうなるにあくまで

10年目の春

グランシップの開館は1999年3月13日。
まもなく来館者は800万人を数える。



10th Anniversary 上質を、身近に。

方針ということですから、目標が達成できたかは問われません。それを静岡県は〈基本計画〉にしたところ、とても画期的なことだと思っています」

計画書のページをめくってみると、冒頭で知事は3年間の目標として「子どもが本物の文化に触れる機会の充実」と「文化をささえる仕組みづくり」の2点を挙げている。

「今、国でも子どもに鑑賞機会を、それも上質なものにふれる機会を提供しなければということに相当真剣に考えていますね。とにかく静岡県の考え方が明確になったことによって、文化施設として計画しやすくなり、館に携わる者として役割がはっきりしたことはあると思います」

「上質なものを身近に。」

「私自身は公共の文化施設というものは、〈文化という公共サービスを提供する場〉と考えています。税金でまかなわれる公共サービスはどういうものかということをごちんと精査しなくてはいけないと思ってますし、限られたお金の中でできるだけ上質なものを提供したいと思っています」

そこで、掲げるキーワードは「上質を、身近に。」

それは提供される芸術が上質であることはもちろん、サービスも含め、すべてにおいて上質であるということ。

「気配りなどといった人間的なやりとりの上だけでなく、貸館業としてもきちんとしたプロのサービスができることを目指したいと思っています」

「古典芸能に親しむ、春。」

さて、県民として楽しみなのは、何といっても10年目を彩る企画だ。

「季節ごと、テーマを設けてイベントを計画中です。ご存じの通り、秋にはアマチュアのための文化祭として〈国民文化祭〉がありますから、そのほかの季節〈春〉〈夏〉〈冬〉にそれぞれ趣向の異なるものをおとけする予定です」

まず、〈春〉は古典芸能を、それも滅多にない趣向で楽しもうというプログラム。「静岡県には静岡県舞台芸術センター（SPAC）という上質な演劇があります。それがそれ以外のものにふれるチャンスが少なすぎるように感じます。ですから、そこを埋めていくのがグランシップ。公立の文化施設の役目だと思っています。これまで観世流との関わりから能を上演する機会を持ってきたが、今回の「グランシップ静岡能」は観世宗家のご尽力で、狂言から野村

グランシップ静岡能

3月7日（土）14:30開演

グランシップ 中ホール・大地

S席 5,000円 完売 A席 4,000円 学生 2,000円

能／「望月」出演：観世清和・観世三郎太
狂言／「蝸牛」出演：和泉流 野村萬斎・野村裕基
毎年恒例の「グランシップ静岡能」。今回は10周年の
寿ぎいっばいに能・狂言ともに親子共演でお楽しみを。

*P11～およびP24参照



観世清和



観世三郎太



野村萬斎



野村裕基

アート・パフォーマンス

東静岡駅の前に広がるグランシップ広場。
緑が一層濃くなる夏にアート空間を創造。



グランシップ音楽の広場

斬新なスタイルとプログラムで大ホール・海を湧かせた第1回。早くも第2回に期待が高まる。指揮／広山淳一 演奏／音楽の広場オーケストラ



おとみち

静岡最強のダンスイベントも過去すでに5回。オーディションを勝ち抜いたアマチュアチームによる「ダンスショーケース」やダンス初心者のための「ストリートダンスワークショップ」など。



「にぎわいの、夏。」

萬斎さん（P11）参照）にご登場いただけることになりました。それも観世宗家親子と萬斎さん親子という減多にない顔合わせで実現できることをうれしく思っています」

今、日本の伝統文化が社会の中で伝わらなくなっているのは、核家族に一因あるのではと語る館長。代々継いでいく能や狂言にふれることで、かつての親子関係の大切さに気づいていただけたらうれしい、ともいう。

また、春の恒例催事といえば、『高松宮妃のおひなさま展』。

「このおひなさま展もここにしかないものの一つです。今年は宮妃のお着物など、ご愛用の品の一部をご覧いただけるほか、さらに五人囃子を雅楽と能楽で楽しむ『雛の宴』もご用意しました。こちらも減多にない趣向ですので、ぜひ、お出かけいただきたいと思います」

続く季節は、アートと音楽の（夏）。毎年恒例の夏イベントと聞いて、ダンス・パフォーマンスで賑わう『おとみち』がピンとくる人はダンス好き。昨年の大オーケストラによる音楽祭『グランシップ音楽の広場』を思い浮かべる人はクラシック好きに違いない。

「公共の文化施設で何かしようというとき、アマチュアの方々に場を提供しましょうとよく言われます。でも、ここでやるのであれば、ここでやる特別な意義が必要だと思えます。去年の『音楽の広場』は一部プロの方もいらっしやいましたが、多くのアマチュア演奏者が参加してくださって実現したものです。でも、そこに日本で考えられるトップクラスの指揮者、演出家やステージマネージャーがいて……。だからこそ、あれだけのものになり、客席の皆様にも参加者にも満足していただけたのではないのでしょうか」

さらにアートでもおもしろそうな企画が待っている。

「グランシップには広場もありますし、東静岡駅からここまでの空間を生かした『アート・パフォーマンス』を考えています。（時間）をテーマに、県ゆかりの現代アーティスト、それも美術系のアーティストだけではなく、音楽パフォーマンスも加えていけたらと思います。ここがアーティストにとっても、お客様にとっても交流できる場所になってほしいという思いもあります」



雛の宴 ～五人囃子のおひなさま～

2月28日（土）14:00開演

グランシップ 6階交流ホール

全席自由 一般 2,000円

学生 1,000円 小学生 無料

高松宮妃のおひなさまの五人囃子は雅楽の楽人。一方、現代のおひなさまの大半は能楽の楽人であることから、雅楽と能楽の演奏を聞きくらべ。

*P10・P24参照

春のおとずれを告げる雛飾り
「高松宮妃のおひなさま展」

2月13日（金）～3月3日（火） 会期中無休

10:00～17:00（入場16:30まで）

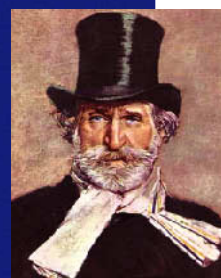
グランシップ 6階展示ギャラリー

前売 350円 当日 400円

第11回目となる今年は、10周年を記念して「喜久子さまゆかりの品々」として、幼少時代のお着物、実際の婚礼道具の一部などを特別展示する。また、貝合わせを楽しむワークショップや香道体験も。*P24参照



「深く味わう、冬。」



ジュゼッペ・ヴェルディ

オペラ『椿姫』

静岡県文化財団がSPACとタッグを組んでおとどけする渾身のオペラ。まさに10周年のフィナーレを飾るにふさわしい豪華な顔ぶれが揃う!

10周年のフィナーレを飾る(冬)。そこに**オペラ**、しかもヴェルディの『椿姫』の名を見つけて、早くも期待に胸ふくらむ人も少なくないだろう。
「私も静岡県文化財団とSPACの共同制作プロジェクトとして計画しています」

演出は鈴木忠志(SPAC前芸術総監督)が手がけ、ピットに入るのは飯森範親指揮、東京フィルハーモニー交響楽団。日本オペラをにぎわす話題作となるはず。

5回目を数える『しずおかの魅力フォトコンテスト』は現在、作品を募集中だが、秋頃各賞が決定し、入賞作品展が開かれるのはちょうど冬の頃だ。併せて、静岡の戦後を写真で振り返る写真展も同時開催を予定している。

「ほかにオーケストラ・コンサートなど、質の高いものをおとどけしていく予定です。10周年らしい記念展示も考えていますので、今週は何をやっているのかな?と気軽に覗きにいらしていただけたらうれしいですね。また、静岡空港の開港に合わせて、中国語や韓国語など多言語のパンフレットも制作中です。バックステージツアーなど、グランシップならではのサービスをとおとどけしてまいりますので、ぜひ、注目していただきたいと思います」



「静岡の魅力 第4回フォトコンテスト」受賞作品

静岡の魅力 フォトコンテスト

静岡県の魅力を日本全国、世界に発信するフォトコンも数を重ねること5回目。現在、作品を募集中(8月末締め切り)。審査委員長を務めるのは大竹省二氏。ほかに織作峰子氏ら。冬には展示ギャラリーにて入賞作品展を開催する。
*P24参照

「内なる愛」を体験して

多々良 栄里 (グランシップペンクラブ会員 フォトグラファー)

が主流になりつつある時代に、合って笑っている。反対側の列写真だ。そして、なんとなく素晴らしいモノクロプリントを、でも、小学生の兄弟が写真に写っている手の形を二人で真似している。アーウィットの写真は、一枚一枚を難しい顔をして見ている。写真展ではなくて、心にしわじわ染み渡ってくる。それは、写真家が撮影する一瞬に自らの被写体への思いを凝縮させたからに他ならない。

何必館・京都現代美術館所蔵の世界写真家シリーズの5回目、「エリオット・アーウィット」展を見てきた。グランシップの展示ギャラリーは天井が高く通路が広くて快適な空間。一歩足を踏み入れると写真展が始まるのだという雰囲気に含まれる。会場へ入り一枚目の写真の前でモノクロプリントの美しさに目を奪われた。職業柄、多くのモノクロプリントを見る機会があるが、その中でもこれは素晴らしいプリントだった。モノクロ写真は、撮影、現像、プリントという工程の一つが最終的なプリントの出来栄に影響する。デジタル



GRANSHIP Pen Club

会場を歩いていると、一枚の写真の前で夫婦と思われる男女が、熱心に話し込んでいる姿を見かけた。どういう状況で撮られたのかを二人で想像し

文化についてはいまだ地域間格差がある。
客観的に見て、それはおかしい。

日本の医療や教育において、地域間格差はほとんどない。地方都市でも世界最高の手術が行われ、優秀な人材が輩出される。公費を投入しているというコンセンサスが国民の間にある。けれども文化芸術は違う。一つの演目に対して、東京と地方が同等のアクセス権があるかといえばそうではない。しかも世界的な作品を創作される可能性と

なると地方ではゼロに等しい。「アタマとカラダにはお金を使うが、ゴコロには公費があまり使われないというのは、まったくバランスを欠いています。健康保険制度や失業保険制度があるなら、芸術保険制度があつてもいいじゃないかと思うんです。」

そんないかにも芸術家らしい創意ある提言から、講演は始まった。

子どもの頃から、シャワーを浴びるように本物の芸術文化にふれることでしかセンスは磨かれないから。

「今、必要とされるのは現代社会にとつての新しいカタチの原っぱ、広場。その一つが劇場であり、音楽ホールであり、美術館ですね。つまり公共ホールは二つの出会いの場なんです。」

価値観の多様化に合わせて、行政はさまざまなメニューを、それも広域のメニューを用意して、市民に参加してもらおう。そして、「みんながみんなを知っている」ような、かつての地縁型の強固な共同体ではなく、「誰かが誰かを知っている」ような社会に編み変えていく必要がある。そして、そこに「人と人をつなぐ」芸術文化の果たすべき役割があるという。

きっかけを用意することも、公共ホールの重要な役割の一つだ。

欧米で都市の再生が図られた1980年代。再開発のシンボルとして、町の中心にアートのスペースが創られた。そのとき、耳を傾けたのは移民やシングルマザー、身障者など、マイノリティの声だった。社会的弱者が参加しやすいスペースにすることに重きが置かれたのだという。

「劇場経営は飛行機を飛ばすことに似ているといわれます。乗客が一人でも満席でも、一機飛ばすコストは変わらない。採算ラインはだいたい7割だそうですが、大切なのは残り3割をどういうサービスにまわすか。飛行

機でいえばマイレージサービスですね。劇場は子どもや身障者の方々を招待する、参加型のプログラムを用意するなど、空席を戦略的に生かせるはずですが、実際、日本ではそうしたダイナミックな運営が難しい。なぜなら劇場のミッションが明確でないから。何をもつて公共とするか。位置づけをはっきりさせることが大事なんです。」

さらに不況から一変、芸術家にやさしい街として文化によって再生させたい街として文化によって再生させたい

劇場は生きもの。
モノを創っていないと
本当に死んでしまう。

公共ホールには〈学習〉〈交流〉〈創造・発信〉の3つの機能があるといわれる。鑑賞は〈学習〉の一つであり、機能全体からすればごく一部。ワークショップなどを通じて出会いの場を提供することは〈交流〉にあたる。

「劇場機能の中でも今後重要なカギを握るのが〈創造・発信〉でしょう。これは単なる市民参加型のプログラムとは違います。税金を投入して創られた作品が市民県民にとって有形無形の財産になるということ。地域だけでなく、市外や県外、あるいは海外に行つて投下した資金を回収できる、あるいは市民県民の誇りになるということです。」

肝心なのはソフトを地産地消する、そのシステムがつくれるかどうかだ。



「劇場は生きもの、モノを創る場所です。裏を返せば、モノを創っていないと死んでしまう。それは大げさでなく、実際にそうなんです。公共ホールはできるだけ質の高いモノを市民県民にとどけることが役割であり、そこに携わる人すべてが誇りを持てるシステムであることが重要です。そういう意識はモノを創っていないければ生まれてきません。毎年でなくとも、他ホールとの連携でもいい。それも命をかけてギリギリのところでやっているプロと一緒に創っていくことが大事だと思います。」

REPORT

平成20年度静岡県公立文化施設協議会自主事業研究会 基調講演より
於：平成20年10月7日 グランシップ1001-1会議室

平田オリザが語った2時間。 文化による地域再生。 そして、公共ホールの役割。

演出家・劇作家であり、劇団を主宰する演劇人であると同時に、父から受け継いだ小劇場の運営に長年携わってきた平田オリザ氏。そんな氏による講演がグランシップ10階会議室で行われた。主催は県内にある公共ホールによる団体、静岡県公立文化施設協議会[※]だ。題して「新しい公共ホールの役割」――2時間余りをかけて語られた話は実に興味深く、疑問と納得、驚き、そして、あらためて反省と希望が喚起される内容だった。これらはそのごく、ごく、ごく一部である。

※「静岡県公立文化施設協議会」：県内の公立文化施設の加盟館の連絡研究によって、ホール機能を十分に発揮し、地方文化の向上に資することを目的としている。事務局は会長所属施設（グランシップ）、加盟館43館。

冬の季節に入ると、東京に住む身に“温暖”の有難さがなつかしくよみがえる。静岡はまさに“温暖”の有難味を、古来ずっと受けつづけてきた。これに対して、極寒の地方では、この“温暖”を確保するためのさまざまな工夫、寒さに耐えるための強靱な精神力などが、生活する上での必須条件となってきた。そうやって得た“温暖”の有難味には、“温暖”をつねとする土地柄とはちがう、強い幸福感がからんでいるにちがいない。

逆に、たやすく“温暖”が手に入る土地では、それは自明のことであり、とくに感謝や幸福感をからめて思うこともなく、日々を過ごす傾向が生じてくる。自分の日常通りの天候に、いちいち極寒の人々を対比させる必要はないと言えないのだ。

ただ、“温暖”が当然であるように、その土地の風景や町並み、あるいは食や芸能などの文化などへも、ともすれば気を向けず、やはり当然のこととして見すごしてゆくありかたが生じてくる。これもまた、そこへ気を向けても向けなくてもよい事柄なのかもしれない。何しろ、そこへの感謝の念をいだかずとも、とりたてて気を向け

ずとも、ずっとゆつたり暮らしてきたという、いわば土地の伝統的気分のよなものがあるのだ。

先日、久方ぶりに静岡をおとずれ、静岡市葵区（ちやまち）の茶町あたりを、何ということもなく歩く機会があった。茶町というだけあって、

道の左右にジグザグのようにいくつかの古めかしい茶舗があり、出してもら

った茶を啜しつ、店の人と八方山話（よもやまばなし）を楽しむ、なかなか品のある老婦人の姿が、ガラス張りの引戸越しに見えた。そして、左右にジグザグにあるどの店にも、似たような風景があった。これを打ちながめつつ歩いていると、駿府という城下町の風情が、そこからやわらかく立ちのぼってくるような感じがした。

私は、松江の川べりにある和菓子屋や、金沢の履物屋や呉服屋の店先などで、何度もそのような場面をながめてきた。そのたびに、同じ城下町でも和の香りが街に見つかりにくい静岡という故郷を、ちよいとばかり寂しく思いかさねたものだった。

だが、外堀から県庁の前を通って内

大人びた城下町のティスト

堀にいたるコースなどからは、通りすぎるだけでも城下町の匂いが伝わってくる。茶町といわず、よく気を向けてみれば、静岡の街のそこかしこに、かつての城下町であった町屋の雰囲気が残っているのかもしれないか…私はそんなことを思った。

“温暖”の有難味を感じないで育った私の目は、静岡の価値ある風景をとらえきれぬまま、今にいたっているらしい。そのことを痛感するとともに、今ようやく、静岡という大人びた街のティストを、遅まきながら嗅ぎ取ることができるようになったのかもしれないとひとりごちた。そして、この意識のながれこそ、きわめて静岡の伝統的気分かもしれないと思ったのだった。



画／風鈴丸

【むらまつともみ】作家。東京生まれ。小学校～高校時代を清水（現静岡市）で過ごす。慶応義塾大学文学部卒業後、出版社勤務を経て文筆活動に入る。小説、エッセイ等、著書多数。「時代屋の女房」で直木賞、『鎌倉のおばさん』で泉鏡花賞受賞。





チケット発売中

3/28

GLコード40001

炎神戦隊ゴーオンジャー ファイナルライブツアー2009



ラストバトルをマッハ全開で駆け抜けろ!新戦隊ヒーローも登場!

■①10:00開演(9:15開場)②13:00開演(12:15開場)
③16:00開演(15:15開場)

■大ホール・海

■全席指定 S席 3,500円 A席 2,500円
*2歳以下膝上鑑賞無料



チケット発売中

3/16

GCN Lコード42401 S

グランシップ名人会其の四 春風亭小朝独演会



現代の売れっ子噺家がついにグランシップ名人会に登場。現代感覚あふれる笑いとキレのある語り口は、なるほど天才! 完売必至の人気公演だけにチケットはお早めに。

■19:00開演(18:30開場)

■6階 交流ホール

■全席指定 前売 4,000円(当日 4,500円)



チケット発売中

3/1

GS (静岡本店・藤枝瀬戸新店)

シンフォニエッタ 静岡チケットセンター

平成20年度グランシップ提携公演事業 シンフォニエッタ 静岡 第11回定期演奏会 聴け! シャルリエの妙技



すぐれた室内オーケストラ作品を発信するシンフォニエッタ 静岡とグランシップとの提携公演。ヴァイオリンのオリヴィエ・シャルリエ(パリ音楽院教授)がコンサートマスターとして名曲「シェエラザード」にも出演。魅力のソロをお聴き逃しなく。

■14:00開演(13:30開場)

■中ホール・大地

■全席指定 S席 6,000円 A席 5,000円
B席 3,500円 C席 2,000円
車椅子席・親子席 2,000円

ユース料金(20歳未満の方)S、A、B、C 各半額

■問合せ・予約/シンフォニエッタ 静岡チケットセンター
TEL054-204-7778



チケット発売中

3/6

GCN Lコード41654 Pコード304-176

GRANSHIP JAZZ LIVE 「モダンジャズの変遷 vol.1」 〜ビ・バップ時代〜



ビ・バップ時代のリーダーの一人、アルトサクソフ奏者チャーリー・パーカーを特集! また同時期に活躍したディジー・ガレスピーやジャズの帝王マイルス・デイビスの楽曲もたっぷり。大山日出男によるスピード感あふれるアドリブは聴きごたえ十分。

【出演】大山日出男(サクソフ)、中路英明(トロンボーン)
マーク・トゥリアン(ベース)、セシル・モンロー(ドラム)
ルイス・バジェ(トランペット)、ジョナサン・カット(ピアノ)

■19:00開演(18:00開場)

■中ホール・大地

■全席指定 一般 4,500円 学生 1,000円
2回セット券(1/25・3/6) 8,500円



チケット発売中

3/7

GCN Lコード42515 Pコード391-667

グランシップ静岡能

能2番、狂言1番の本格的能公演。テーマは「親から子への伝承」。能からは観世清和、観世三郎親子、狂言から野村萬斎、野村裕基親子が共演。貴重な機会をお見逃しなく!

■14:30開演(14:00開場)

■中ホール・大地

■全席指定 S席 5,000円 A席 4,000円
学生 2,000円

→P11~、P17参照

静岡の魅力 第5回 フォトコンテスト2009



募集部門

- ①「静岡の魅力」部門(静岡から静岡の魅力を発信)
- ②「静岡と交流」部門(県外から静岡の魅力を発見)

応募締切

2009年8月31日(月) ※当日消印有効

審査員

大竹省二(写真家) 藤井秀樹(写真家)
沼田早苗(写真家) 織作峰子(写真家)
山本晋也(映画監督) 徳川慶朝(写真家)
天野 一(静岡県文化芸術振興議員連盟会長)
田村孝子(静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ館長)

賞金

最優秀賞(静岡県知事賞) 50万円 1点 他多数

応募先 問合せ先

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町15-4 静岡新聞SBS紺屋町別館
(株) SBSプロモーション内「フォトコンテスト事務局」
TEL.054-254-2056 FAX.054-252-5436
(受付時間:月~金9:30~17:30/土日祝除く)
E-mail: photo@sbs-promotion.co.jp

応募方法

上記フォトコンテスト事務局にお問い合わせの上、応募要項・応募票をお取り寄せください。
応募方法は、応募要項またはグランシップホームページをご覧ください。

主催/財団法人 静岡県文化財団 企画制作課 TEL.054-203-5714 FAX.054-203-5716



<http://www.granship.or.jp>

(財)静岡県文化財団発行 季刊「しずおか文化」関連企画

しずおか文化 第5回 体感ツアー開催!

鷹狩体感

平成21年2月8日(日)

- 講師/八木洋行「しずおか文化」編集長
- 実演/駿府鷹狩協会 ■会場/沼津市浮島地区
- 定員/40名※定員になり次第締め切らせていただきます。
- 出発地・集合時間/静岡駅南口 AM8:00
富士駅南口 AM9:00
- 旅行代金/3,500円(税込)※当日受付で集金
(旅行代金にはバス代のほか、保険代が含まれます)

その鍛えられた技を体感

お問合せ・お申込み先

旅行企画・実施/

knt! (株)静岡支店

近畿日本ツーリスト

観光庁長官登録旅行業第20号

総合旅行業務取扱管理者:小林 英之
TEL.054-254-4646

〒420-0857 静岡市葵区御幸町6-11

FAX 054-255-6639

営業時間/月~金 9:00~17:45
土・日・祝祭日定休日

TOPIC-1

秋篠宮妃紀子様が臨席
創立120周年記念赤十字大会

11/27、大ホールにて日本赤十字社静岡県支部の創立120周年記念赤十字大会が開催された。日赤名誉副総裁の秋篠宮妃紀子様が臨席されるなか、赤十字活動に功績のあった方々の表彰などが行われた。

TOPIC-2

襲名20年、芸歴50年の名人芸
六代目宝井馬琴が名人会に

『家族で楽しむ講談教室』でもおなじみの興津出身の講談師、六代目宝井馬琴が11/29、交流ホールの『グランシップ名人会其の三 馬琴、駿河を語る!』に満を持して登場。『清水次郎長と山岡鉄舟』『徳川家康 鯉のご意見』と静岡ゆかりの二席を熱演。満員の講談一筋約半世紀の芸を存分に味わった。

TOPIC-3

秘話・お宝満載
“昭和”を懐かしむ

グランシップの運営をボランティアとして支えるグランシップサポーター。そのサポーターによる企画事業『グランシップ戦後講演会 戦後史の中のひばり人生一路』が、10/25、交流ホールにて行われた。グランシップ矢島チーフプロデューサーによる美空ひばりと昭和戦後史の講演、サポーター出展の「ひばりと青春の思い出展」の展示が行われ、参加者は懐かしき良き時代に思いを馳せた。

TOPIC-4

斬新な演出、スタイルで魅了
KenKen Dnace Factory

島田市に本拠を構え、夏の『おとみち2008』にも出演の発表会「けんけんのYeah!!!!!! Vol.11『ひまわりの咲く丘』」が9/7大ホール・海にて開催。プロジェクターをホール上部に設置、ダンスエリアを映し出すという斬新な演出や踊り手を観客が囲むスタイルで観客を魅了した。

TOPIC-5

「源氏物語」生誕1000年
Stepsがおくる恋の物語

Steps Musical「Woman～源氏物語より～」が10/19、中ホール・大地にて上演された。横山由和による脚本・演出で、朧月夜役を静岡市清水区出身の舞台女優葉月さやが好演。世界最古の小説を現代に映し、その絢爛豪華な衣裳とともに楽しんだ。

TOPIC-6

静岡市消防との連携を確認
グランシップ防災訓練

グランシップでは、11/10消防防災訓練を実施。職員による避難誘導・散水訓練の他、静岡市消防からは消防ヘリコプター「カワセミ」やはしご車が出動。お客さまの安全を最優先に有事の際の連携を確認した。

TOPIC-7

恒例! クリスマスの絵展覧会
季節を彩る園児の作品が一堂に

グランシップ3階ロビーには、静岡市内の幼稚園児によるクリスマスの絵展覧会をに開催(12/1～25)。200点に及ぶ子ども達の夢いっぱいの作品は、館内のシンボルツリーとともにクリスマス気分を盛り上げた。

TOPIC-8

グランシップレストラン
冬の特別メニュー(～2/28)

※写真はランチタイムの盛り付け例

朝霧ヨーグル豚の柔らか煮大根のコンフィ添え(ライス付)1,480円
柔らかく煮込んだバラ肉。粒マスタードが味を引き立てる一品。本誌・ホームページご覧の方のみの特別料理につき、前日までに要予約。グランシップレストランオアシスまで。TEL054-202-2980

GRANSHIP
SHOW-WINDOW ALBUM

クリスマスの夜サンタさんがそりに乗ってやってきた。煙突からおうちに入り…。夜を意識したシルエットフォルム作品をアニメーション構成で。
*12/25にて展示終了



テーマ/「color～あんな色・こんな色」
タイトル/サンタアニメーション
制作/アトリエサンゴ

「本格的なホールで コンサートを 開くのが夢なんだ」

- 今日の**中ホール**でのコンサート、よかったよね！私もあんなところで演奏できたらなあ、なんて。
- できたらなあ、じゃなくて、ぜひやってよ、コンサート。
- えっ？ あそこ、借りられるの？…つてことは、自分たちのコンサートを開くのも夢じゃないってこと？
- もちろん。ちなみに僕は先月、**交流ホール**でバイオリンのコンサートを聴いてきたけど、あそこも雰囲気よかったよ。
- それを聞いて、なんだかやる気が出てきちゃった。ただ、練習場所がね…。うちはマンション



交流ホール



中ホール・大地

■シアター形式なら400席の客席スペースを保有。
雰囲気のある楕円空間は、少人数の演奏会に最適。

■客席879席（最大1209席）※オーケストラピット使用時760席。
ステージ面積最大404㎡。スタッフ用控室、楽屋（有料）あり。

施設利用料金表

名 称			使用料（単位：円）					全日 (9時～22時まで)
			午前 (9時～12時まで)	午後 (13時～17時まで)	夜間 (17時30分～22時まで)	午前～午後 (9時～17時まで)	午後～夜間 (13時～22時まで)	
中ホール・大地	入場料なし及び 1,000円以下	平 日	25,000	38,000	57,000	63,000	95,000	110,000
		土日休日	30,000	46,000	68,000	76,000	114,000	132,000
	入場料 1,001円～3,000円以下	平 日	34,000	51,000	76,000	85,000	127,000	146,000
		土日休日	41,000	61,000	91,000	102,000	152,000	176,000
	入場料3,001円～5,000円以下 営利目的の利用	平 日	42,000	63,000	95,000	105,000	158,000	182,000
		土日休日	51,000	76,000	114,000	127,000	190,000	220,000
交流ホール	入場料 5,001円以上	平 日	51,000	76,000	114,000	127,000	190,000	220,000
		土日休日	63,000	95,000	143,000	158,000	238,000	275,000
	入場料なし及び 1,000円以下	平 日	20,000	30,000	44,000	50,000	74,000	85,000
		土日休日	24,000	35,000	53,000	59,000	88,000	102,000
	入場料 1,001円～3,000円以下	平 日	26,000	39,000	59,000	65,000	98,000	113,000
		土日休日	32,000	47,000	71,000	79,000	118,000	137,000
リハーサル室	入場料3,001円～5,000円以下 営利目的の利用	平 日	33,000	49,000	74,000	82,000	123,000	142,000
		土日休日	39,000	59,000	89,000	98,000	148,000	171,000
	入場料 5,001円以上	平 日	39,000	59,000	89,000	98,000	148,000	171,000
		土日休日	49,000	74,000	111,000	123,000	185,000	213,000
	リハーサル室		4,600	6,200	6,900	10,800	13,100	17,700
	練習室1・2		1,800	2,300	2,600	4,100	4,900	6,700
	練習室3・4		900	1,300	1,400	2,200	2,700	3,600

- 商業宣伝、営業等を目的として使用する場合は、中ホール、交流ホールについては、「入場料3,001円～5,000円以下」の区分を適用し、その他については、当該区分の額に100分の200を乗じた額とします。
- 練習、準備または撤去のために使用する場合は、中ホール、交流ホールについては、「入場料なし」の区分の額に100分の50を乗じた額とします。

音楽環境は

バッチリだよ」

練習室もあるし、

地下には

「グランシップはどう？」

■ 別に秘密にしなくてもいいと思うけど……。
まずは電話で練習室の予約状況を確認して
からだね。

● ……え、グランシップにそんな施設があるなんて知らなかったな！最近上達したと思ったら、そんなところで特訓してたんだ！じゃあ早速地下の練習室で秘密特訓だ。

演前は周りを気にせず練習したいしね。

■ ……だったら、グランシップの地下の練習室がおすすめだよ。少人数なら小さい練習室があるし、リハーサル室ならオケのみんなが集まっても練習ができるよ。プロのオーケストラも使ってるんだってさ。それにあそこなら好きなだけ音を出してもOKだから。とくに公演前は周りを気にせず練習したいしね。

■ ……だって、夜の練習なんてまず無理！昼間でもやっぱり音が気になるし。仲間も苦労してるみたい。



リハーサル室



練習室1

■ 中ホールの主舞台とほぼ同サイズの間口をもち、本番同様のリハーサル、稽古が可能。

■ 演奏をはじめ、ダンスや演劇などの練習に最適な大小4つの練習室はフローリング床。(練習室3・4は鏡なし)



ピアノ(有料)

■ リハーサル室はコンサートピアノ、練習室2はセミコンサートピアノ、練習室1・3ではアップライトピアノが利用可。(練習室4はピアノなし)

お知らせ

グランシップは、施設の定期点検のため、下記の期間全館休館となります。
施設使用にかかわる予約受付等の事務処理も休館中は行いませんので、皆様のご理解とご協力をお願いします。
(図書館コーナー、情報ラウンジ、チケットセンター、カフェ、レストランもお休みです。)

平成21年 1月13日(火)～16日(金)
2月・3月休館日はありません
4月13日(月)～14日(火)
5月25日(月)～27日(水)
6月22日(月)～25日(木)
7月13日(月)～16日(木)

ご利用についてのご案内

[申込受付]

午前9時～午後8時 ※開館時間／午前9時～午後10時

[申込方法]

電話、または当財団窓口にて。受付は先着順となります。尚、予約受付を開始する月のお申し込みについては、事前に「抽選申し込み」を承っております。(詳細は、利用サービス課までお問い合わせ下さい。)

お申し込み・お問い合わせ

TEL 054(203) 5713

FAX 054(203) 6710

財団法人 静岡県文化財団 利用サービス課 〒422-8005 静岡市駿河区池田79番地の4 メールアドレス yoyaku@granship.or.jp

施設の空き状況は、ホームページでも検索OK! <http://www.granship.or.jp>

[申込受付時期&連続使用可能日数]

施設区分	受付開始日	連続使用可能日数
国際会議や全国規模のコンベンション	随時	
大ホール、中ホール	利用開始日 2年前の同月初日	14日
会議ホール、交流ホール、映像ホール	利用開始日 1年前の同月初日	7日
展示ギャラリー	利用開始日 1年前の同月初日	14日
会議室、リハーサル室、練習室、グランシップ広場	利用開始日 半年前の月初日	7日



グランシップは全館禁煙となっております。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

グランシップの運営にボランティアの立場で参加する「グランシップサポーター」が、それぞれの心意気や感想、体験談をレポートします。

SUPPORTER's VIEW

サポーター賛歌

第8期サポーター 撮影業務担当 砂田 学

真夏の学校体育館に一流の管弦楽団が来た。ギターリストが学校に向いて直接指導した。また、演奏者300人の巨大円形オーケストラが誕生した。これらは地域交流として、あるいは子ども達に向けてグランシップが実現したイベントである。とくにこの型破りのオーケストラでは、観客がオケ内で鑑賞できる特別セット席があり、日本を代表する指揮者井上道義氏の「前衛的で実験的な演奏で自分達のカベを破る」という言葉通りの演奏が高揚感を増し、観客を魅了した。私は2階席でカメラを構えながら、この臨場感に感動すると共にサポーターの「醍醐味」に感謝したい気持ちだった。

このように撮影サポーターは指定席で、自分のアングルで美しい舞台や観客の様子を客観的に観ることができる恵まれた役柄であり、何よりも楽しい。その反面、観客との接触がなく、孤独でもある。つい最近、私はサポーターの自主企画である『戦後講演会』に実行メンバーとして参画し、会場設営や広報、外部要請や展示方法等にアイデアを出しあうなど、面白い経験をした。その中で大きな収穫は、仲間との信頼関係であったと思う。心が通うそんな仲間達から「次の企画は何にしようかな」との声が自然に生まれた。私はこの時、

サポーターの和が一つのカベを乗り越える瞬間を垣間見たような気がした。



Report 044

READER'S VIEW

●沼津に移住して5年目になります。(中略)仙台に居た時はギターを習っていましたが、沼津では不慣れで先生にはついていません。貴社「G」38号に福田(進二)先生のことがついていました。(福田先生は関西大学で私の後輩に当たります)本屋さんで初めて拝見しましたがすばらしいマガジンですね。一度、静岡に行きたいです。

〈沼津市・水谷俊二さん〉

●「G」vol.40を見て「エリオット・アーウィット展」に行ってみたくなりました。写真を趣味としているわけではないですが、一枚の写真を人によつて違う見方ができると思うのです。(中略)友人とシヨッピングや映画を楽しむのもいいけれど、たまにはクラシックコンサートや企画展にも行きたいと思うこの頃です。〈静岡市・フジさん〉

●グランシップへは写真展、トレインフェスタ、コンサート等、年に何度か足を運びます。時間に余裕を持って出かけ、展望ロビーが開放されていれば、そこでゆっくりします。景色が良く、電車や新幹線を見ながらホッとひと息コーヒーを…。この時間が好きです。〈静岡市・KTさん〉

●娘と「火の鳥」を観ました。バックステージツアーにも参加して舞台の様子を見ることができ、親子で大満足でした。

〈静岡市小澤俊卓さん〉

★グランシップおよび本誌「G」に関する「意見、感想、お問い合わせなど、皆さまからのお便りをお待ちしています。なお、お寄せいただいたお便りは、本コーナーに転載させていただくこともあります。転載不可の方は、その旨明記の上、お送りください。

Editor's room.....

臨床心理学者の故河合隼雄さんが文化庁長官の時代、ご専門の臨床心理学の立場から、人間の心にとって文化芸術の大切さを訴えられ様々な施策・事業を提唱されています。そんな中で最後に強く訴えられ、実施されたのが「親から子、子から孫へ、親子で歌いつごう 日本の歌百選」でした。全国から寄せられた歌百選とエピソードは文化庁のホームページに掲載されていますが、河合長官が何より望まれたことは、日本に伝わる歌を介しての親子のコミュニケーションに違いありません。「自分が懐かしい日本の童謡や抒情歌を歌うと不思議に一緒に歌うのよ！」言葉も発せず、寝たきりの母親を介護していた友人の言葉です。でもCDでは、お母様は決して歌うことはなかったそうです。

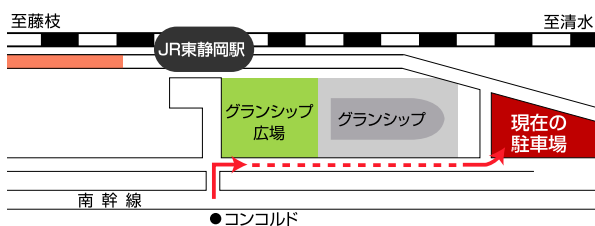
「パリ・オペラ座」での市川団十郎、市川海老蔵親子、ニューヨークに続いて、ドイツでの公演も成功させた中村勘三郎一家、日本の伝統文化継承の力を実感します。3月7日「グランシップ静岡能」での観世清和、野村萬斎、親子共演の貴重な機会を是非ご覧下さい。

グランシップ館長 田村 孝子

グランシップにお越しの際は、
混雑緩和のため、
公共交通機関をご利用ください。



●注意 〇〇は、橋梁工事のため、平成21年1月13日～平成24年3月下旬まで通行止めとなります。(車両、歩行者共)



●ACCESS/ 東海道新幹線(ひかり)で東京から1時間、大阪から2時間。JR静岡駅下車。東海道本線でJR東静岡駅まで3分。東静岡駅南口に隣接。